

令和元年度指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

令和2年6月26日
農林水産局

1 要旨

指定管理者制度を導入している次の施設について、管理運営状況を報告する。

2 対象施設

施設名	指定管理者	ページ番号
広島県栽培漁業センター	(一社) 広島県栽培漁業協会	2
広島県緑化センター・広島県立 広島緑化植物公園 (ひろしま遊 学の森)	ひろしま遊学の森管理グループ	5

令和元年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

水産課

1 施設の概要等

施設名	広島県栽培漁業センター		
所在地	竹原市高崎町字西大乘新開 185 番地の 12		
設置目的	魚介類の種苗生産, 配布等による栽培漁業の振興		
施設・設備	管理棟, 貝類棟, 飼育棟(50t×16 水槽), 新魚種種苗生産棟(50t×8 水槽)等		
指定管理者	4 期目	H28. 4. 1~R3. 3. 31	(一社) 広島県栽培漁業協会
	3 期目	H23. 4. 1~H28. 3. 31	(一社) 広島県栽培漁業協会
	2 期目	H20. 4. 1~H23. 3. 31	(社) 広島県栽培漁業協会
	1 期目	H17. 4. 1~H20. 3. 31	(社) 広島県栽培漁業協会

※平成 25 年 4 月 1 日から一般社団法人に移行。

2 施設利用状況

利用状況	年度		目標値 [事業計画]	種苗生産尾数	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)
	4 期	R1		10,058 千尾 (1,500 千枚)	9,628 千尾 (1,439 千枚)	96 千尾 (△83 千枚)
H30			9,478 千尾 (1,500 千枚)	9,532 千尾 (1,522 千枚)	227 千尾 (254 千枚)	54 千尾 (100.6%) (22 千枚 (101.5%))
H29			9,265 千尾 (1,500 千枚)	9,305 千尾 (1,268 千枚)	△612 千尾 (△267 千枚)	40 千尾 (100.4%) (△232 千枚 (84.5%))
H28			9,148 千尾 (1,500 千枚)	9,917 千尾 (1,535 千枚)	1,090 千尾 (6 千枚)	769 千尾 (108.4%) (35 千枚(102.3%))
3 期平均 H23~H27		8,624 千尾	8,827 千尾	△2,973 千尾	203 千尾 (102.4%)	
2 期平均 H20~H22		11,343 千尾	11,800 千尾	△1,099 千尾	457 千尾 (104.0%)	
1 期平均 H17~H19		12,622 千尾	12,899 千尾	△1,862 千尾	277 千尾 (102.2%)	
H16 (導入前)		13,790 千尾	14,761 千尾	—	—	
増減理由	○漁業者の需要を反映した生産尾数とするため事業計画を毎年度立てている。 ○種苗生産尾数については、一部の魚種で計画数に届かなかったが、その他の魚種が計画以上の生産となり、全体では前年度並みの生産尾数となった。					

※第 4 期の () 内は三倍体カキ (かき小町) 生産枚数 (内数)。

3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	【実施方法】	【対象・人数】
	種苗生産配布検討会を開催して、漁業者のニーズ等を把握	(公財) 広島県漁業振興基金, 広島県漁業協同組合連合会, 広島県内水面漁業協同組合連合会
	【主な意見】	【その対応状況】
	健苗の生産	飼育環境及び餌料系列の変更による健苗生産
	遊漁に適したアユの生産	遊漁に適した人工種苗の研究
生残率の向上	飼育密度や飼育方法の工夫	
キジハタの生産と配布	安定した量産技術の開発	

4 県の業務点検等の状況

項目	実績	備考
報告書	年度	○ 事業報告書
	月報	○ 事業報告書
	日報 (必要随時)	○ 水産種苗調査 (報告書)
管理運営会議 (現地, 県庁等)	【特記事項等】 施設の修繕箇所を確認し課題を整理した。	【指定管理者の意見】 修繕の実施中においても、効率的な種苗生産に取り組めるよう配慮を求める。
現地調査 (随時 水産種苗調査及び 3 月に実施)	【県の対応】 修繕工事契約に指定管理者の意見を踏まえた内容及び工程を設定した。	

5 県委託料の状況

(単位：千円)

	年度			種苗頒布収入 (決算額)	年度				
		金額	対前年度増減			金額	対前年度増減		
県委託料 (決算額)	4期	R1	89,126	518	種苗頒布収入 (決算額)	4期	R1	200,640	902
		H30	88,608	△628			H30	199,738	14,467
		H29	89,236	△2,702			H29	185,271	△16,746
		H28	91,938	△1,208			H28	202,017	59,607
	3期平均 H23～H27	93,146	△31,840	3期平均 H23～H27		142,410	48,448		
	2期平均 H20～H22	124,986	△5,672	2期平均 H20～H22		93,962	16,612		
	1期平均 H17～H19	130,658	△21,574	1期平均 H17～H19		77,350	15,328		
	H16 (導入前)	152,232	—	H16 (導入前)		62,022	—		

6 管理経費の状況

(単位：千円)

項 目		R1 決算額	H30 決算額	前年度差	主な増減理由等	
委託事業	収入	県委託料	89,126	88,608	518	人件費の増
		種苗頒布収入	200,640	199,738	902	重点魚種種苗増産業務委託費の増
		その他収入	8,990	11,500	△2,510	メバル委託事業費の減
		計(A)	298,756	299,846	△1,090	
	支出	人件費	132,015	123,695	8,320	嘱託員の増
		光熱水費	4,967	4,862	105	消費税の増
		設備等保守点検費	16,325	15,774	551	消費税の増
		清掃・警備費等	654	648	6	
		施設維持修繕費	6,967	8,158	△1,191	施設修繕の減
		事務局費	378	379	△1	
		種苗生産経費	136,405	142,005	△5,600	生産設備修繕の減
		その他	1,045	4,325	△3,280	生産安定化準備資金の減
	計(B)	298,756	299,846	△1,090		
	収支①(A-B)	0	0			
	自主事業 (※)	収入(C)	0	0		
支出(D)		0	0			
収支②(C-D)		0	0			
合計収支(①+②)		0	0			

※ 自主事業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

7 管理運営状況

項目		指定管理者 (事業計画, 主な取組, 新たな取組など)	県の評価
施設の効用発揮	○施設の設置目的に沿った業務実績	<p>漁業者ニーズ等の把握に努め、広島県種苗生産・配布要領に基づき、令和元年度の生産魚種、尾数、単価等を決定し、それに基づき、種苗生産を行った。</p> <p>魚類については、計画数量以上の生産ができたものについて、余剰種苗として積極的に販売した。</p> <p>見学者に対する栽培漁業実習を実施するとともに、各市町等が開催する放流行事に放流用稚魚を提供。また、見学者の安全を確保するためカラーコーンを常設。</p> <p>施設が老朽化する中、安定的な種苗生産を維持するため、生産設備等の点検、修繕を実施した。</p>	<p>生産尾数は、種苗生産配布検討会を開催するなど、漁業者ニーズの把握を行い、ガザミ等に対する漁業者の大型種苗ニーズを反映した種苗生産を実施している。</p> <p>魚類では、余剰種苗の積極的な配布により、栽培漁業の推進に貢献している。</p> <p>学校団体等の見学を積極的に受入れ、栽培漁業及び地域振興に寄与するなど自主的に取り組み、県民サービスの向上に努めている。見学者のために施設の安全確保に努めている。</p> <p>適宜、生産設備の修繕を行い、安定的な種苗生産の実現に尽力している。</p>
	○業務の実施による、県民サービスの向上		
	○業務の実施による、施設の利用促進		
	○施設の維持管理		
管理の人的物的基礎	○組織体制の見直し	<p>全職員が種苗生産、施設の修繕・整備、販売促進等すべての業務を担当できるように、オールラウンド型事務局体制の構築に努めた。</p> <p>種苗生産業務の時期的人役の的確な把握により、労務時間の短縮を図った。</p>	<p>職員等の配置換えを行い、種苗生産業務及び施設管理業務について効率的な体制となっている。</p>
	○効率的な業務運営		
	○収支の適正		
総括		<p>全職員が業務の見直し、業務の品質向上及び利用者ニーズの把握を行い、運営への反映に取り組んだ。</p> <p>当該施設の現状を再確認し、県とともに種苗生産能力を確保するため、老朽化している施設・生産設備の維持・管理に取り組んだ。</p>	<p>種苗生産目標に向け、漁業者からの要望にも応えた運営を実施している。</p> <p>種苗生産については、試験研究機関と連携し、生産改善に努め、安定生産に取り組んでいる。</p> <p>栽培漁業について、漁業者及び他機関と連携した取組を推進している。</p>

8 今後の方向性（課題と対応）

項目	指定管理者	県
短期的な対応 (令和2年度)	<p>○三倍体カキ幼生の付着率向上に取り組む。</p> <p>○生産魚種の安定生産に向けた親魚養成技術や中間育成技術の確立に取り組む。</p> <p>○令和2年度より、集中放流魚4種（ガザミ・カサゴ・オニオコゼ・キジハタ）の内、オニオコゼ、カサゴ、キジハタの増産に取り組む。</p>	<p>○生産の効率化を図るための施設整備を実施する。</p> <p>○放流後の生残率の向上に向け、各魚種に応じた運搬方法や放流場所、放流手法の指導を行う。</p> <p>○キジハタの量産化や遊漁に適したアユの人工種苗生産に対し協力等を行う。</p>
中期的な対応	<p>安定的な種苗生産を実施するため、施設の機能強化により、効率的な生産を進める。</p>	<p>第7次栽培漁業基本計画及びアクションプログラムの実現に向け、計画的に施設の改修・修繕を実施する。</p>

令和元年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

森林保全課

1 施設の概要等

施設名	広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園（ひろしま遊学の森）		
所在地	広島市東区福田町 10166-2		
設置目的	○緑化に関する知識及び技術の普及 ○緑化の推進		
施設・設備	面積 124.97ha, 管理事務所・展示館等（4棟）, 遊歩道（12,000m）, 駐車場（474台）等		
指定管理者	5期目	H29.4.1～R4.3.31	ひろしまの遊学の森管理グループ
	4期目	H28.4.1～H29.3.31	みずえ緑地㈱
	3期目	H23.4.1～H28.3.31	みずえ緑地㈱
	2期目	H20.4.1～H23.3.31	みずえ緑地㈱
	1期目	H17.4.1～H20.3.31	みずえ緑地㈱

2 施設利用状況

利用状況	年度	目標値 [事業計画]	入場者数	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)
	5期	R1	98,000人	101,393人	17,906人
H30		98,000人	83,487人	△10,904人	△14,513人(85.2%)
H29		98,000人	94,391人	1,056人	△3,609人(96.3%)
4期	H28	96,870人	93,335人	△4,195人	△3,535人(96.3%)
	3期平均 H23～H27	96,870人	97,530人	△1,175人	660人(100.7%)
2期	2期平均 H20～H22	93,900人	98,705人	4,769人	4,805人(105.1%)
	1期平均 H17～H19	93,600人	93,936人	12,513人	336人(100.4%)
	H16（導入前）	—	81,423人	—	—
増減理由	○閉園中の広島市森林公園の利用客であるファミリー層の来園による増加 ○暖冬及び桜の開花時期が早かったことによる冬季・早春の利用者の増加				

3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	【実施方法】	【対象・人数】
	利用者へのアンケート調査	施設利用者・研修会参加者等 992人
	【主な意見】	【その対応状況】
	遊具を充実させてほしい。	緑の相談所建屋内に木製遊具 2基, 多目的広場に遊具を 2基設置した。
樹名板の充実をお願いします。	園内に樹名板 300枚, 大型標識 2基を設置した。	
整備されていて気持ちが良い。広報活動の充実をしてほしい。	HPを見やすく改良し, こまめな更新に努めた。またユーチューブの公式チャンネルを開設した。	

4 県の業務点検等の状況

項目	実績	備考
報告書	年度	○ 事業報告書
	月報	○ 月次業務報告書
	日報（必要随時）	○ 施設の老朽・損傷状況等
管理運営会議（3回）	【特記事項等】 <ul style="list-style-type: none"> 臨時シャトルバスの運行等の利用策を広島市森林公園と協議 県, 市両園合同会議及び活性化委員会については新型コロナウイルス感染拡大防止のため, 書面決議により開催し, 次年度事業計画へ反映 	
現地調査（2か月毎に実施）	【指定管理者の意見】 <ul style="list-style-type: none"> 利用者ニーズに対応した既存設備の有効活用による県民サービスの向上と利用の促進 マニュアルに基づく定期点検の実施による安全対策の強化 【県の対応】 <ul style="list-style-type: none"> 公園施設再整備工事により, 被災施設の復旧を行うとともに遊具やベンチ等のサービス施設を充実 樹木点検を行い, 点検結果に基づき, 危険木や支障木伐採を実施 設備の老朽箇所の点検・把握を行い, 緊急度の高い設備から修繕を実施 	

5 県委託料の状況

(単位：千円)

県委託料 (決算額)	年度		金額	対前年度増減	料金 収入 (決算額)	年度		金額	対前年度増減
	5 期	R1		61,176		1,176	—	—	—
H30			60,000	0					
H29			60,000	3,430					
4 期		H28		56,570	820				
3 期平均		H23～H27		55,750	2,500				
2 期平均		H20～H22		53,250	△3,210				
1 期平均		H17～H19		56,460	△5,794				
	H16 (導入前)		62,254	—					

6 管理経費の状況

(単位：千円)

項 目		R1 決算額	H30 決算額	前年度差	主な増減理由等	
委託事業	収 入	県委託料	61,176	60,000	1,176	消費税率引き上げに伴う増
		料金収入	0	0	0	
		その他収入	0	0	0	
		計(A)	61,176	60,000	1,176	
	支 出	人件費	30,493	28,310	2,183	引継ぎによる職員の増(7-12 月期, 1 名)
		光熱水費	1,905	1,947	▲ 42	
		設備等保守点検費 清掃・警備費等	6,789	6,945	▲ 156	レストハウス臨時休業による, 清掃費の減
		施設維持修繕費	3,085	7,789	▲ 4,704	災害復旧工事の完成による減
		緑地管理費等	9,838	6,463	3,375	昨年度は施設維持修繕費に充当していたため
		事務局費	4,815	4,826	▲ 11	
		その他	4,258	3,727	531	消費税率引き上げに伴う納税額の増
	計(B)	61,183	60,007	1,176		
		収支①(A-B)	△7	△7	0	
自主事業 (※)	収 入(C)	0	0	0		
	支 出(D)	0	0	0		
	収支②(C-D)	0	0	0		
合計収支(①+②)		△7	△7	0		

※ 自主事業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

7 管理運営状況

項目		指定管理者 (事業計画, 主な取組, 新たな取組など)	県の評価
施設の効用発揮	○施設の設置目的に沿った業務実績	昨年に引き続き、平成30年度7月豪雨により閉園中の広島市森林公園にて開催予定の研修会を緑化センターで実施したことや、災害復旧工事期間中には、同森林公園までの臨時シャトルバス通行を許可した。また、両園共催の「ひろしま遊学の森」ネイチャーマスター認定制度を新設した。	広島市森林公園の研修会受け入れや進入路の提供、「ひろしま遊学の森」ネイチャーマスター認定制度の新設など、県市連携の取組を強化されている。
	○業務の実施による、県民サービスの向上	湿地植物園に植栽を行い、新たな見どころのひとつとしたほか、レストハウス周辺や芝生広場など園内の8箇所に花木を植栽し、施設の充実に努めた。	幅広い年齢層の利用者を対象に施設の設置目的に沿った利用促進を図る積極的な取組が行われている。
		広大で豊かな自然に恵まれたフィールドを活用して、各種の研修会・体験イベントを実施した。また、地元住民やボランティア団体と協働して緑化活動や清掃活動を実施した。	ボランティアと協働で、施設管理や緑に親しめる環境づくりに取り組んでおり、ボランティアの育成と併せ、コストダウンを図る工夫がなされている。
	○業務の実施による、施設の利用促進	子供向け遊具の設置やオープンテラスの改良、間伐材でつくった動物のオブジェの展示など、幅広い年齢層の利用者が楽しめる施設づくりに努めた。	近年の子供やファミリー層の増加の流れを的確に捉え、サービス向上や園内整備の取組が行われている。
	○施設の維持管理	利用者アンケートの意見を参考に研修会や展示会の計画を立て、夏休み期間に計5回の「夏休み自由工作塾」を開催した。また、緑化に関する各種相談に対しては引き続き丁寧な対応に努めた。 施設点検マニュアルに基づいて点検し、要整備箇所について順次修繕を実施した。	緑化相談(578回)や各種研修会(57回出席者1,362人)を実施し、施設目的に沿った業務を行っている。展示企画やイベント内容を利用者が求める内容に随時変更し、利用者の増を図っている。 施設点検マニュアルに基づき適切に点検を実施しており、安全面に十分注意した管理運営が行われている。
管理の人的物的基礎	○組織体制の見直し	繁忙期と閑散期で勤務人員を調整するとともに、緑化相談や広報担当等を適正に配置し、効果的かつ迅速に対応した。	勤務ローテーションの調整や業務直営化による運営の効率化、若手職員と経験豊富な職員を配置し、適正な運営が行われている。
	○効率的な業務運営	飲料水検査及び警備業務を広島市森林公園と同一の業者へ発注し、業務効率化を図るとともに、複数年契約により経費を節減している。	委託業務を同一業者に対して発注、複数年契約するなど市森林公園との共同管理により業務効率化、経費節減に取り組んでいる。
	○収支の適正	また、定期点検等から優先度を検討し、施設修繕を予算内で実施している。	また、定期点検によって施設現況を的確に把握し、予算内で適切な施設修繕が行われている。
総括	広島市森林公園との連携をさらに推し進めるとともに、当初提案してきた植物園の再生を推進すべく、湿地植物園の再整備を行い、今後の利用者増に向けた準備を整えた。 一方、3月期には新型コロナウイルス感染防止対策により、研修会やイベントを中止する事態となった。今後、感染拡大防止の措置を徹底するとともに正常化後の運営管理に向けた準備を進める必要がある。	広島市森林公園との連携や、施設の設置目的に沿った取組、積極的な広報、植物の専門知識を活かした取組が行われ、施設の利用促進が図られている。 また、老朽化が進む施設の維持管理を予算の範囲で適切に行っているほか、3月期のコロナウイルス感染防止対策では、国県の示した基準により適切に措置を講じており、利用者の安全確保を図られている。	

8 今後の方向性(課題と対応)

項目	指定管理者	県
短期的な対応 (令和2年度)	○広島市森林公園との一体的な運営管理による活性化と課題の抽出及び対応 ○公園運営・情報の発信	○広島市森林公園との一体管理の課題や集客効果の検証 ○危険木処理や老朽化施設の修繕実施
中期的な対応	○利用者増に向けた魅力ある施設づくり ○老朽化施設の計画的な修繕	○検証結果を踏まえた集客増に向けた取組や効果的な施設運営 ○老朽化施設の計画的な修繕